脳・神経センター ・ リハビリテーションセンター

長崎北病院 伝言板 1月号

令和8年1月1日発行

2026年。新春のお慶びを申し上げます。寒波の中での年明け。今年は午年（うまどし）、更に60年に一度の「丙午（ひのえうま）」。勇気、行動力、前進などの象徴とされ、物事が「うま」くいく縁起の良い干支とダジャレのようなことも言われています。サラブレッド、ロイヤルファミリーのようには走れなくとも、途中で道草食いながらでも結構、テクテク、ぽくぽくと前に進みたいものです。 今年は、今年も良い年でありますように。よろしくお願いします。



「セルフレジ」

昨年は病院の経営状況の悪化や倒産など暗いニュースが多かった年でした。病院の7割が赤字と言われます。その中で当院はなんとか赤字にはならず。各部署、職員全員が同じ方向を向いて努力した結果だと思います。お疲れ様でした。



今後も、人口減少が進み、患者さんが減っていく中では、立ち止まったり、ほかと同じ事をしたりしていては潰れていくと思います。専門性を活かした特色のある病院、加えて高齢者を総合的に診療できる病院が生き残っていくとも信じています。当院も同じように見えても、中身は毎年毎年、少しずつでもグレードアップし変化していく必要があります。昨年もタスクシェア・タスクシフトの導入やパーキンソン病・神経難病センターの発足など地道に進んできました。今後も進化していくためには、現状の病院のままでは足りない部分があり、十分な診療が難しくなってきました。今後の20年を見越して、外来診療、外来リハなど手狭、不足部分を中心に増築、リフォームが必要と考えています。安全、安心、快適な医療を提供するためにも必須と考えています。

最近は医療Dx（デジタルトランスメーション）導入、つまり情報やデータをデジタル技術で統合・標準化して効率化を目指すのがトレンドのようです。どの病院でもAIやIOTなど新しい技術の導入が続いていくと思います。各種病院の職員募集のパンフレットを見ると「AIなどを導入し業務負担軽減してます」などと書いてあるところが増えています。しかし医療Dxの導入は、それが目的でもゴールでもありません。負担軽減や業務改善の道具にすぎません。負担軽減や人手不足解消など職員、病院にとっては良いことです。しかし、Dx導入で生まれた時間や新しい働き方を、医療の質や患者サービスに還元することができて初めてDxが役に立ったことになります。新しい技術で患者さんの情報がベッドサイドに行かなくても得られる時代です。便利ですし、楽になります。しかし、そのようなことでは患者満足度は上がりません。下がるだけだと思います。 Dx導入による業務効率化を進めながら、一方では面倒臭い、時間がかかると敬遠され軽視されがちな、人と人との関わり、対人対応をきちんとできる病院が選ばれていくと思います。



皆さんは、多くのスーパーなどで導入されているセルフレジはご存知だと思います。人手不足対策として普及してきました。しかし最近風向きが変わっているようです。セルフレジは企業にとっては人手を減らし、経費削減できますが、お客さんに手間とストレスをかけることになります。特に高齢者には不便です。すでに欧米ではセルフレジを導入した店舗で万引きの増加、顧客満足度低下で客離れが進み、セルフレジの「廃止、縮小、有人レジへの回帰」が加速しているそうです。日本でもイオンなどではすでに同様の方向へ舵を切っているそうです。利用する人の目線が大切です。病院でもDxの推進とともに いかに人が関わる部分を向上させるかが今後の鍵だと思います。業務では効率化しても人と人の対応では 膝を折って患者さんと同じ目線で時間をかけて話ができる。ヒューマンフレンドリー、患者フレンドリーな病院が生き残っていくと思います。 今年も皆で、声を出しあい笑顔で頑張っていきたいと思います。今年もよろしくおねがいします。（A.S.）